

16世紀フランスの王令に見る行政の文書化

Administration Literacy in 16th Century France

永井 敦子

文化政策学部 国際文化学科

NAGAI Atsuko

Department of Intercultural Studies, Faculty of Cultural Policy and Management

本論文では16世紀の王令における文書作成に関する規定を検証する。1490年代から16世紀にかけて、王権は長大な王令を繰り返し発布し、王国の司法制度・課税制度をそこに書き表しただけでなく、高等法院その他の裁判所に、王令の文字どおりの遵守、および王令に基づいた判決を命じた。またそれらの王令においては、それぞれの裁判所の判決、公証人の証書類、貴族の名簿、そして教区簿冊といった、文書記録の作成と参照についての規定が増えていく。これを本論では行政の文書化として捉える。16世紀後半のフランスは宗教戦争期にあたるが、文書化の視点を加えることによって、当時の治安行政（ポリス）を含めた行政体制を見直すきっかけとしたい。

In this article royal ordinances on written records are focused on. From the last decade of 15th century to the 16th, the kings repeated to issue voluminous ordinances in order to reinforce royal institutions of justice and finances. They demanded that royal ordinances had to be observed literally and consulted by the judges of parliaments and inferior courts. They also insisted that more and more written records be kept and referred as court decrees, notarial deeds, list of fief-holders, and parish registers. A suggestion to the insight into administration literacy is given during my research on 'police' i.e., keeping social order (cf. the vol. 22). The subject of practical literacy might lead to reconsider literate behavior during the era of the Gutenberg revolution.

1. はじめに

本稿は16世紀における王国行政の文書化がどのように進展したかを、王令の本文に即して確認するものである¹。中世史研究では、行政ないし統治の手法としての文書の作成・保管・参照が問題になっているが、近世初期において文書化はどのような意味をもつだろうか²。15世紀末頃から16世紀までの文書化としてまず指摘できるのは、財政や司法など広範にわたる長大な王令の発布、しかも「ルネサンス期の君主による立法はベネロペの織物のごとく、何度も始めからやり直しとなった」と言われるほどの王令発布の繰り返しである³。さらにそうした王令で命じられる、教区簿冊をはじめとした文書作成の推進も指摘しておくべきだろう。筆者は前稿で秩序維持対策について、その方法としての文書化、つまり王令による取り締まり内容の明文化をたどった⁴。そのなかで、各種の名簿や記録の作成に基づいた対策の精緻化という可能性を考えた。本稿はこれを受けて、当時の王令のなかの文書作成に関する規定に注目していく。以下ではまず中世までの行政文書のあり方を確認し、続いて16世紀にかけての文書化の進展について述べたい。

2. 中世における文書化

王国行政の文書化は、フランスではフィリップ2世（オーギュスト）の治世に、発した王令の控え（原本だけでなく、原簿 registres または抜粋 extraits）を保管・蓄積し、財政も文書で記録するようになって、新しい段階を迎えたとされる⁵。その孫ルイ9世の治世には、のちにパリ高等法院となる専門化した法廷が形成され、判決集 Olim が記録されるようになる。またタイク税の割り当て方法を示す王令が出され⁶、都市行政レベルでも、パリのプレヴォであっ

たエティエンヌ・ボワローによる同業組合規約集が作成された⁷。

14世紀には三部会が開催されるようになる。14世紀前半の三部会の中心的機能は国王への課税合意であったが⁸、1355年12月にラングドイル三部会で塩税 Gabelle と援税 Aides の徴収が承認されると、それを受けて王令がまとめられた⁹。国王が三部会への諮問をへて王令を出すという手続きは、この後も1356年5月26日付の税に関する王令、および1356年3月付（旧表記）で財政や司法など広範にわたる「大王令」において、王令の本文に書き込まれた¹⁰。さらに15世紀には、国王シャルル6世による1413年1月末のパリでの三部会開催と同年5月25日付の財政・司法・軍事にわたる包括的な王令の発布¹¹、シャルル7世による1439年10月のオルレアンでの三部会開催と同年11月2日付の軍事改革王令発布¹²という流れが見られる。1413年5月25日付の王令は施行されなかったが、その中にプレヴォ・国王代官らは国王からの書状による命令を直ちに執行するか、執行できない場合にはその理由を説明する書状を国王または大法官に送り返すよう命じる条項があり¹³、国王が王令の実効性を確保しようとしていたと考えられる。

しかし国王は14世紀以来、一方でほぼ全国レベルから地方レベルまでの三部会を不定期に開催しながらも、もう一方では三部会の合意を経ずに王令の発布および課税をすることができた¹⁴。1440年代からは財政組織改革および司法改革に関する一連の王令が、三部会を経ずに出される。文書化に関しては、それらの王令のなかでさらに進展を確認することができる。1443年9月付のソーミュール王令は地方の収税官 receveur への支出命令として、通常の順序よりも「国王が手ずから署名し、大法官府の印璽のある命令つきのリストないし名簿」を優先させる指示が含まれ¹⁵、また1445年8月12日付のシャロン王令は、王領財源 notre

Domaine に含まれる都市・城塞・貢租地・林野・沼沢・水車などの管理のためにそれらをリストアップして、貢租 censive や定期金 rente の負担状況と改修にかかった経費などを、各地の収税官が国庫収入役または会計法院に文書で報告するよう命じた¹⁶。司法改革においても1446年10月28日付のモンティ・レ・トゥール王令が、高等法院での記録作成と王令登録を命じ¹⁷、次いで1454年4月付のモンティ・レ・トゥール王令は、下級審を含めて判決の文書化と慣習法令集の作成を命じた¹⁸。

課税名簿以外にも、1439年7月16日付のパリ王令はパリ会計法院から国王代官に指示して、それぞれ管区内の王の直封 fief および陪臣封 arrière-fief を数え上げ、その所在地と保持者とともに記録を作成して、3か月以内に提出させるよう命じた¹⁹。1448年4月28日付のモンティ・レ・トゥール王令は、地方徴税管区 élection をつうじて各教区につき1人の自由長弓手 francs-archers を選出して名簿を提出するよう命じた²⁰。1459年4月3日付（旧表記）のシノン王令は、課税方法について教区ごとに住民のタイユ税割り当て名簿を作成するよう命じるいっぽうで、徴税管区ごとの自由長弓手の割り当てと、都市防衛にあたる弩隊員 arbalétriers・長弓隊員の選定方法についても命じた²¹。封の保持者については、国王が情報を求めるだけでなく保持者側も主張したことがうかがえるのが、1470年11月付のモンティ・レ・トゥール王令である。この王令は、平民が貴族封 fief noble を取得すれば世襲の貴族になれるというノルマンディ地方三部会の主張に対して、貴族封の取得のみによる爵位獲得を否定したものであった²²。

司法・徴税以外の領域の文書化についても、パリに関する規定を見る限り、14世紀にはすでに王令でシャトレ裁判所の司法体制とあわせて証書の管理規定が整備され始めていた²³。15世紀にはシャトレ裁判所の公証人を対象に、証書・契約書類およびその原簿の扱いに関する1437年12月1日付の王令が出された²⁴。パリの秩序維持についても1350年1月30日付または2月27日付（旧表記）に全般的な王令が出された²⁵。さらに1363年3月6日付（旧表記）のパリ王令には、パリの夜警を職業ごとに当番で担当する者の名を名簿につけて管理する夜警書記 clerc du guet への言及があり、そのような名簿の作成 enregistrar がうかがえる²⁶。15世紀には1467年6月付のシャルトル王令が、パリの都市防衛を担わせるために職業別に61の旗団 bannière をつくって団長 principal と副団長 soubz-principal を選出させ、また装備について規定し、団長・副団長および旗団に所属するべき家長と使用人の名簿を作成するよう命じた²⁷。全国レベルでも1479年4月20日付のトゥール王令に夜警書記への言及がある²⁸。

これらの王令から、中世には王国行政の文書化として、国王が書状としての王令を司法官・財政官などに与えて文言どおりの執行を命じ、官僚にも国王への報告だけでなく、将来の参照にそなえた記録のための文書を作成させるといった手順が浸透した。さらに国王は王令に司法・財政・都市行政などの全般的な仕組みを書き表すようになり、臣下の側もそうした文書作成を受け入れていったと言える。15世紀後半までには、地方で実務を担当する行政官にも文書の扱いが浸透していた²⁹。したがってこの後16世紀までの文書化の進展とは、文書の分量、文書で管理される領域、

そして文書を扱う人々の規模などの拡大と言えよう。

3. 王令の発布と施行

15世紀末頃から16世紀までにかけて、財政や司法など王国行政の広範囲を規定する長大な王令が繰り返し発布された。あわせて既存の王令の収集が必要とされ、司法の場で王令に基づいた判決が出されているかどうかの検証が命じられた。この時期の長大な王令としては以下が挙げられよう。シャルル8世による1493年7月付のパリ王令は、高等法院を中心とする司法手続きを定めた111か条の王令であった³⁰。続くルイ12世による1498年3月付（旧表記）のプロワ王令は、司法・行政全般にわたる162か条の王令である³¹。フランソワ1世治世の重要な王令としては1539年8月のヴィレール・コトレ王令がある³²。その孫シャルル9世のもとでは、1560年12月から翌1月にかけてのオルレアン全国三部会を受けてまとめられたオルレアン三部会王令と³³、宗教戦争勃発後の1566年2月にムーラン王令が出された³⁴。次のアンリ3世治世には、1576年に開催されたプロワ全国三部会を受けて、1579年5月にパリで363か条に及ぶプロワ三部会王令が出された³⁵。

三部会をへて王令がまとめられる例は15世紀半ばまでにもみられたが、それらと比べるとオルレアン三部会王令とプロワ三部会王令は、長大さと陳情書の集約に依拠する点が異なる。ジョルジュ・ピコの『全国三部会史』で陳情書 cahiers の持ち寄りが指摘されるのは、1468年4月に開催されたトゥール三部会からで、次の1484年1月のトゥール三部会以降は陳情書が集約されるようになった³⁶。オルレアン三部会王令とプロワ三部会王令には、王令じたいに三部会に議員たちが持ち寄った陳情書の集約をもとに作成されたことが書き込まれており³⁷、議員たちも文書化に参加したと言える。

しかもオルレアン三部会とプロワ三部会の議員たちは、王令がそのまま高等法院での登録を経て施行されるべきだと考えていた。オルレアン三部会王令がまとまって1561年8月にパリ高等法院に送られたとき、高等法院が登録に際して修正を検討したことに対して、当時ポントワーズで追加の集会に参加していた議員たちは強い反発を示した³⁸。1576年のプロワ全国三部会においても、議員たちの間には「諸身分の意見によって作成された王令は、全国三部会によらずには違反も撤回もされ得ない」という意見があった³⁹。この二つの三部会のあいだに出された1566年のムーラン王令は、高等法院の王令登録権・建白権を規定したもののとして知られるが、その第1条では建白に関する規定よりも先に、シャルル9世と歴代の国王によって出された王令の遵守を命じている⁴⁰。そのうえで、ムーラン王令そのものを建白も異論もなしに登録・施行するよう命じた⁴¹。

王令の遵守について、1493年7月付のパリ王令は高等法院長に王令違反がないか検討するための会議を定期的で開催するよう命じた⁴²。1498年3月付（旧表記）のプロワ王令も同様の検討会議について規定するとともに⁴³、高等法院と国王代官府の司法官は王令に精通しているだけでなく、高等法院の各審査室と国王代官府に「王令集の本」を設置して、裁判の際に必要なに応じて参照するよう命じた⁴⁴。ムーラン王令もまた、高等法院が王令に反する判決の検討

会議を定期的を開くよう繰り返している⁴⁵。

以上のような王令が出される一方で、ピコによるとオルレアン三部会でまとめられた陳情書には増え過ぎた王令の整理という要請があった。なかでも第三身分は、「今後臣民のあいだで遵守されるべき法令集を作成し、余分を削除し、もって訴訟に要する時間と件数の過多、訴訟当事者及び司法官の不正を解決する」ことを提案したとされる⁴⁶。これに対してはブロワ三部会王令で王令の収集と削減 *réduire* の方針が示されるにとどまった⁴⁷。

4. 文書の地方への浸透

地方行政における文書化については、まず1498年3月付（旧表記）のブロワ王令が、国王代官府そのほかの国王裁判所の書記に記録を作成するだけでなく、参照のために記録を提供すること、その警吏 *sergens* にも読み書き能力が求められることと規定した⁴⁸。課税については1517年6月30日付のモントルユ王令が、徴税官の職務とタイユ税の割り当て方法などを規定したなかで、課税名簿の作成とあわせて、免税特権を主張してタイユ税を逃れようとする人々について、裁判所に登録された特権証書がなければ税を割り当てるよう地方徴税官に命じ、また地方徴税官府の書記が課税名簿、徴税請負契約簿、端数に関する決定やその他の確認事項を記録簿に登録するよう命じた⁴⁹。さらにブロワ三部会王令が、タイユ税について教区ごとに割り当てられる者と免税を主張する者の名簿を作成するよう命じた⁵⁰。

貴族については1539年10月15日付のコンピエーニュ王令が、全国のプレヴォに宛てて管区内の公・伯・男爵領以外の所領、城塞、領主裁判所、直封と陪臣封の収入高、主従関係、軍役の義務、およびその保持者の名と身分を国王顧問官に報告するよう命じた⁵¹。1547年2月9日付（旧表記）のフォンテーヌブロー王令は、貴族に国王代官の前での閲兵式 *montre* に参加するよう命じ、国王代官と各地の防衛責任者には、これに参加した者または参加の免除を得た者の姓名と封の名を閲兵式名簿に登録するよう命じた⁵²。閲兵式を経た名簿作成という手順は、ブロワ三部会王令で歩兵についても繰り返されている⁵³。その一方でブロワ三部会王令では平民が貴族の称号を名乗ったり紋章を掲げたりすることを禁止し、あわせて貴族封を購入した平民がそれだけでは貴族身分を獲得できないと明文化した⁵⁴。平民に貴族の僭称を禁止した王令としては、これに先立って1576年7月付のパリ王令があり、その主な目的は衣服の奢侈禁止である⁵⁵。さらに1583年3月付のパリ王令が、貴族の僭称の禁止と合わせて、貴族身分でなく国王のための軍役にもついていない者はタイユ税を負担すべきであると規定した⁵⁶。

住民名簿の作成については、パリを対象として1551年2月13日付（旧表記）のパリ王令がパリ高等法院で貧民救済を担当する委任官に、市内と郊外の住民と領民に貧民への施し物の提供について調査をおこない、教区ごとにそれぞれの提供額または提供拒否などの回答を含めた名簿を作成するよう命じた⁵⁷。1552年2月27日付（旧表記）のサン・ジェルマン王令はパリの城壁整備に必要なと見積もられた1年あたり12万リーヴルの経費を、商人プレヴォと助

役が市内と郊外の各家・教会組織・住居・店舗・地所・庭などから取り立てるため、高等法院・会計法院・地方総徴税局の代表と助役、地区長 *quarteniers* などの立ち合いで家ごとに配分額を決め、その割り当て名簿を作成して地区長に渡すよう命じた⁵⁸。

これらの王令で住民名簿の作成が命じられる以前、1484年1月付（旧表記）のモンタルジ王令は、パリの16人の地区長が「プレヴォと助役のもと、それぞれの地区において都市の事柄を観察し、知らせを聞き、必要に応じて地区の貴族・ブルジョワ・領民・住民を集め、都市の問題に秩序と備えをもたらし、また各地区で住民、常住者、よそ者を含めた人々の数を知っている」べきだとしているが⁵⁹、住民名簿の作成には言及しなかった。その後1541年12月22日付のパリ高等法院の判決が、シャトレに市内16地区それぞれの監視を担当する32人の委任官を設置し、その職務の一環として地区長などに住民名簿を作成させるよう命じた⁶⁰。なお夜警については1559年5月付のパリ王令が、それまでの同業組合ごとの当番制を廃止して夜警担当官の職務とした⁶¹。

このような世俗の名簿作成と並行して、1539年8月のヴィレール・コトレ王令とブロワ三部会王令が、教区簿冊の作成と保管を義務づけた。ヴィレール・コトレ王令は死亡と誕生の記録の目的を示して、聖職禄保持者の死亡時を証明するための記録と、成年か未成年かを証明するための洗礼の記録を命じている⁶²。ブロワ三部会王令では洗礼だけでなく結婚と俗人の死亡の記録を合わせた教区簿冊の作成・保管を義務づけたほか⁶³、その記録の目的として、司法官就任の年齢の下限の規定とともに、洗礼の記録に依拠して年齢を証明する方法が示された⁶⁴。

これ以外に記録の作成が要請された分野として、ヴィレール・コトレ王令で規定された市場での取引価格の記録がある。財産をめぐる係争における「果実」の価格評価のために、「それら（小麦・葡萄酒・秣など）の価格を市の立つ日ごとに商人の代表2、3人が裁判所の書記局に報告し、書記官またはその下役が記録する」よう命じた⁶⁵。またオルレアン三部会王令は同業組合規約の印刷を認めた⁶⁶。

証書と契約書の管理については、1510年6月付のリヨン王令が公証人 *notaires et tabellions* が作成に携わった契約書の原簿を作成順に整理し、いつでも参照できるようにするよう命じた⁶⁷。ヴィレール・コトレ王令は、これに加えて譲渡契約の証書を登記し、遺言書と契約書についても公証人が保管するよう命じた⁶⁸。オルレアン三部会王令は公証人の職務に関する規定のなかで、契約書は当事者双方の署名、または当事者本人が署名できない場合には立会人の署名がなければ無効と規定し、ブロワ三部会王令はこれを継承するとともに監視を強化した⁶⁹。

ヴィレール・コトレ王令は司法などでの使用言語をフランス語と規定したことで知られるが、これに先立って1510年6月付のリヨン王令に、成文法地域の刑事裁判でラテン語ではなく「その土地の俗語」を用いるよう命じる規定がある⁷⁰。教育についてはオルレアン三部会王令が、聖職者による世俗の子どもたちの教育について規定し、その財源として信心会の基金を充てさせた⁷¹。このようにして文書化が都市民レベルに浸透し、また識字教育も進められていたことがうかがえる。

5. おわりに

以上のように王国行政の文書化を王令の文言に即して見てきたなかで、15世紀末から16世紀にかけての文書化の進展としてまず言えるのは、王令そのものの文書量としての増大とともに、王令の規定のなかで文書による管理を期待される、司法・徴税そのほかの行政領域の拡大と、それに合わせて文書を扱う人々の範囲の拡大である。教区簿冊、証書類や同業組合規約に至るまで、文書を作成・参照する機会が行政官以外の人々にも拡大したことがうかがえた。しかも王令がそのまま登録・施行されるべきであり、係争時などに文書記録が参照されるべきだと考えられていたからには、書かれた文言と現実との密接な照応関係が受け入れられていたと言えよう。しかし秩序維持について見ると、同時期にはその方法としての文書化、つまり王令による規定の明文化と、各種の名簿や記録の作成も進展しつつあったとはいえ、16世紀後半の宗教戦争という混乱もあり、文書化の進展によって実効性が上がったかどうかについては断言できない。

それでもこのような文書化の進展が、当時の行政体制の研究に重要な示唆を与えてくれるかもしれない。例えばミショーは16世紀を「文書優位 la primauté de l'écrit」の最初期と位置づけている⁷²。16世紀には法曹家が分野別の王令集 *recueil* を編纂し出版し始めたが、国王による「法典編纂 *codification*」はまだ開始しない⁷³。こうした王令および行政文書のあり方もまた、いわゆる「グーテンベルク革命」の時期の、人々の文字情報との関わり方の一端をなしていたに違いないのである。

註

- ¹ 史料として用いる王令集は *Ordonnances des rois de France de la troisième race, recueillies par ordre chronologique*, 21 vols., Paris, l'Imprimerie royale/nationale, 1723-1849. 以下では *Ordonnances* または「ヴァロワ王令集」と略す。François-André ISAMBERT et als. éd., *Recueil général des anciennes lois françaises, depuis l'an 420 jusqu'à la Révolution de 1789*, 29 vols., Paris, Belin-Leprieux, 1821-1833. 以下では Isambert または「イザンベール王令集」と略す。Antoine FONTANON, *Les Edicts et ordonnances des rois de France depuis S. Loys jusques à présent avec les vérifications, modifications et déclarations sur icelles*, 4 vols., Paris chez Nicolas Chesneav, 1580. 以下では Fontanon または「フォンタノン王令集」と略す。いずれの王令集も編者が王令ごとにタイトルをつけているので、注では二重カギの中にそのタイトルを引用し、丸カッコ内に発布地と日付を付す。史料の年月日の表記について「1563年」までは年号を復活祭で改めたので、以下、本文と注ともに「1563年」までの1月から復活祭までの年号の表記で、史料の記述をそのまま引用する場合に「旧表記 v.s.」と付す。
- ² Joseph MORSEL, « Ce qu'écrire veut dire au Moyen Age... Observations préliminaires à une étude de la scripturalité médiévale », in: *Memini. Travaux et documents*, Société des études médiévales du Québec, 2000, pp. 3-43 (<https://halshs.archives-ouvertes.fr/halshs-00291802>) ; Natacha COQUERY, Florence WEBER et François MENANT (dir.) *Ecrire, compter, mesurer. Vers une histoire dans rationalités pratiques*, Paris, Editions rue d'Ulm/Presses de l'Ecole normale supérieure, 2006 ; Marco MOSTERT & Anna ADAMSKA (ed.), *Writing and the Administration of Medieval Towns. Medieval Urban Literacy I*, Turnhout, Brepols, 2014 ; 図師宣忠「異端者の情報にアクセスする 中世南フランスにおける異端審問記録の作成・保管・利用」高田京比子ほか編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』昭和堂、2021年、169-192頁。16世紀における王令・勅書の増加と大法官府 *chancellerie* の機能確立に関しては Helène MICHAUD, *La grande chancellerie et les écritures royales*, Paris, Presses Universitaires de

France, 1967. 法制史で近世を視野に入れたものとして、鈴木教司『フランス(ヴァロワ期)民事訴訟史 書面主義の歴史的背景』愛媛大学法学部総合政策学科、2000年。

- ³ Arlette JOUANNA et al., *La France de la Renaissance. Histoire et dictionnaire*, Paris, Bouquins/Robert Laffont, 2001, p. 239.
- ⁴ 拙稿「16世紀フランスにおける治安令 ―武装と浮浪の取り締まりを中心に」『静岡文化芸術大学研究紀要』第22巻、2022年、9-18頁。
- ⁵ François MENANT, « Les transformations de l'écrit documentaire entre le Xlle et le XIIIe siècle », in: COQUERY et al. (dir.), *Ecrire, compter, Mesurer* (op. cit.), pp. 33-50.
- ⁶ « Ordonnance touchant la levée des Tailles, dans les villes du Roy (sans date) », *Ordonnances*, tome I, pp. 291-294.
- ⁷ Etienne BOILEAU, *Le Livre des métiers : XIIIe siècle*, publié par René de LESPINASSE et François BONNARDOT, 1879, reprint, Paris, Jean-Cyrille Godefroy, 2005 ; 高橋清徳「中世パリにおける同業組合の制度的構造」『社会経済史学』Vol. 53 No. 3, 1987年、307-344頁。
- ⁸ 堀越宏一「中世後期フランスの三部会における課税合意の形成と課税放棄」渡辺節夫編著『ヨーロッパ中世社会における統合と調整』創文社、2011年、130-158頁。三部会への諮問をへて出された王令の早い例は、1333年の「利貸(コジュール)に反対する興味深い王令」と見られる。フランソワ・オリヴィエ＝マルタン、堀造訳『フランス法制史概説』創文社、1986年、555頁。この引用の括弧内は原文ではルビ。
- ⁹ « Ordonnance faite en consequence de l'Assemblée des trois Estats des Pais de la Languedoil, ou Coustumiers, qui établit une Gabelle sur le Sel, & une Ayde ou imposition de huit deniers pour livre sur tout ce qui sera vendu, à l'exception des heritages seulement ; & qui renferme plusieurs Reglemens sur differentes matieres (Paris, 28 décembre 1355) », *Ordonnances*, tome III, pp. 19-37 ; Georges PICOT, *Histoire des Etats Généraux considérés au point de vue de leur influence sur le Gouvernement de la France de 1355 à 1614*, 4 vols., Paris, 1872, réimpr. Genève, Mégaritis Reprints, 1979, tome I, pp. 33-42.
- ¹⁰ « Ordonnance faite en consequence d'une Assemblée des Estats, portant établissement de deux subsides qui seront leveez consecutivement (Paris, 26 mai 1356) », *Ordonnances*, tome III, pp. 53-55 ; « Ordonnance faite en consequence de l'Assemblée des trois Estats du Royaume de France, de la Languedoil, contenant plusieurs Reglemens sur differentes matieres (Paris, mars 1356 v.s.) », *Ordonnances*, tome III, pp. 121-146. これらの王令につながる三部会が開催された状況については、堀越宏一「14世紀後半のフランス王国における租税制度の成立」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世の権力編成と展開』東京大学出版会、2003年、185-208頁。
- ¹¹ PICOT, op. cit., tome I, pp. 254-270, 296-297.
- ¹² « Lettres de Charles VII, pour obvier aux pilleries & vexations des Gens de guerre (Orléans, 2 novembre 1439) », *Ordonnances*, tome XIII, pp. 306-313.
- ¹³ « Ordonnance de Charles VI, pour la Police générale du Royaume (Paris, 25 mai 1413) », *Ordonnances*, tome X, pp. 70-141. 該当するのは第172条 « (172) Item. Jureront nosdicts Prevosts, Baillifs, Seneschaux, Gardes des Foires, Maistres des Eaues & Forests, & autres Juges, qu'ils obeyront à nos Lettres & Mandemens, & les recevront en grand reverence & les executeront & feront executer le plutost & diligemment que bonnement pourront, s'ils n'ont essoine, excusation ou cause legitime, par laquelle ils ne puissent ou doivent executer nosdictes Lettres & Mandemens, lesquelles ils Nous rescrivront & Nous en certifieront ou nostre Chancelier, par leurs Lettres patentes seellées du leurs seaux ; & se de ce faire sont negligens ou en demeure, en commettant aucun default, fraude, malice ou dissimulation, Nous les en punirons si grièvement que ce sera exemple à tous autres. », p. 109.
- ¹⁴ 堀越、前掲論文(2011)によれば、1357-58年のエティエンヌ・マルセルの反乱以後、国王は「三部会の同意を経ない課税を模索していた」(138頁)うえ、1439年の軍事改革王令が「三部会開催を前提としない課税の理論的確立に大きく寄与した」(141頁)。
- ¹⁵ « Ordonnance de Charles VII, sur le fait & gouvernement des Finances (Saumur, 25 septembre 1443) », *Ordonnances*, tome XIII, pp. 372-377. この第3条が支出の優先順位を示したもののだが、その中に「口頭の命令」を優先させてはならないという文言もある « (3) Item. Et pour tousjours preferer comme ce doit, les choses divines à toutes autres, avons voulu & ordonné, voulons et ordonnons que doresnavant les

- Receveurs de nos Domaines payent premierement & avant toutes charges quelconques, les fiefs & aumosnes dont leurs receptes sont chargées & redevables, & après facent les reparations qui par necessité convient faire, & après payent les gages des anciens Officiers ordinaires, & non autres ; nonobstant quelconques dons, assignations, Lettres, commandemens de bouche & autres raisons qui se pourront alleguer au contraire, fust de par Nous ou nos Receveurs generaux, & sur peine de restituer ce que payé auroient autrement, sauf toutesfois qu'il leur apparust de nostre vouloir au contraire, par estat ou roodle signé de nostre main, avec mandement séellé du sél de nostre Chancellerie, faisant expresse mention du cas, & que pour les affaires du Roy l'eussions ainsy voulu estre fait : ... », p. 373. 引用文中の ... 部分は永井による省略。
- ¹⁶ « Lettres de Charles VII, portant règlement sur les fonctions & pouvoirs des Trésoriers de France (Châlons, 12 août 1445) », Ordonnances, tome XIII, pp. 444-452. 先のソーミュール王令とこのシャロン王令の間に1444年2月10日付(旧表記)でナンシー王令が出されており、これも文書による財政管理の強化を確認するものである。
« Lettres de Charles VII, sur le fait & gouvernement des Finance (Nancy, 10 février 1444 v.s.) », Ordonnances, tome XIII, pp. 414-420.
- ¹⁷ « Lettres de Charles VII, touchant le style du Parlement (Montils-lès-Tours, 28 octobre 1446) », Ordonnances, tome XIII, pp. 471-482.
- ¹⁸ « Lettres de Charles VII, pour la réformation de la Justice (Montils-lès-Tours, en avril 1453 avant Pâques & en avril 1454 après Pâques) », Ordonnances, tome XIV, pp. 284-314.
- ¹⁹ « Lettre de Charles VII, portant que tous ceux qui tiennent des fiefs du Roi, en donneront le dénombrement dans trois mois (Paris, 16 juillet 1439) », Ordonnances, tome XIII, pp. 299-300. これに先立って同様の命令が、施行されなかった1413年5月25日付の王令(註13)の第173条にある Ordonnances, tome X, p. 109.
- ²⁰ « Lettres de Charles VII, pour l'institution des Francs-archers (Montils-lez-Tours, 28 avril 1448) », Ordonnances, tome XIV, pp. 1-5.
- ²¹ « Lettres de Charles VII, par lesquelles il règle ce qui doit être observé relativement à l'assiette des Tailles (Chinon, 3 avril 1459 v.s.) », Ordonnances, tome XIV, pp. 484-489.
- ²² « Ordonnance touchant les Amortissemens, les Francs-Fiefs et les Anoblissemens en Normandie (Montilz-lès-Tours, novembre 1470) », Ordonnances, tome XVII, pp. 337-341. この王令はノルマンディで封の保持者が爵位を認められる条件を、封を相続によって取得し、「貴族らしく」生活し、軍役にも出ている者、または取得した封を30年以上保持している聖職者と、相続による継承も含めて40年以上保持している平民などと定めた。翌年5月のアン王令もまた、これを確認するものであった。« Lettres explicatives de celles du mois de Novembre précédent sur la Possession des Fiefs en Normandie, et l'Octroi de la Noblesse à la postérité de ceux qui les tenoient alors (Ham, mai 1471) », Ordonnances, tome XVII, pp. 422-425.
- ²³ « Mandement au Prevost de Paris, par lequel le Roy ordonne que les Dépôts de témoins, les Enquestes &c. seront écrites par les Notaires du Chastelet (le Mercredi après la feste de St. Marc, en 1301) », Ordonnances, tome I, p. 338 ; « Ordonnance portant Règlement pour les Officiers du Chastelet (Paris, en la quinzaine de la feste de la Toussaints, en Novembre 1302) », Ordonnances, tome I, pp. 352-353 ; « Ordonnance pour le bien, l'utilité & la reformation du Royaume (Paris, 23 mars 1302 v.s.) », Ordonnances, tome I, pp. 354-368 ; « Ordonnance touchant les Tabellions & les Notaires (Amiens, juillet 1304) », Ordonnances, tome I, pp. 416-420 ; « Ordonnance touchant le Parlement (Bourges, 17 novembre 1318) », Ordonnances, tome I, pp. 673-677 ; « Ordonnance contenant differents Reglemens pour le Jugement des Procès (Hesdin, décembre 1363) », Ordonnances, tome III, pp. 649-655.
- ²⁴ « Lettres de Charles VII, par lesquelles il ordonne que les Notaires du Châtelet de Paris, garderont par-devers eux des Registres ou Protocoles des Actes qu'ils passeront ; lesquels Registres seront remis à leurs successeurs dans leurs Offices (Paris, 1er décembre 1437) », Ordonnances, tome XIII, pp. 249-251.
- ²⁵ « Ordonnance concernant la Police du Royaume (le penultième du mois de Fevrier de l'an 1350 v.s.) », Ordonnances, tome II, pp. 350-380 ; « De la police de la ville de Paris (l'an 1350, le penultiesme iour de lanuier v.s.) », Fontanon, tome I, pp. 604-622. 上のようにヴァロワ王令集とフォンタノン王令集で発布月に食い違いがある。高橋清徳訳「[資料]『パリ市の一般警察および諸職に関する国王ジャン二世の勅令』(1351. 1. 30)」『千葉大学法学論集』1(2)、1987年、61-127頁。
- ²⁶ « Ordonnance du Roi portant règlement sur le guet de la ville de Paris, par les gens de métier (Paris, 6 mars 1363 v.s.) », Isambert, tome V, pp. 172-178.
- ²⁷ « Ordonnance sur le fait des Mestiers de la ville de Paris (Chartres, juin 1467) », Ordonnances, tome XVI, pp. 671-678 ; パリの夜警については1491年4月付のサン・マルタン・ド・カンデ王令が重ねて、夜警書記の人数・職務を含めて規定した「Règlement pour le guet de la ville de Paris (Saint-Martin de Candé, avril 1491) », Ordonnances, tome XX, pp. 314-316.
- ²⁸ « Ordonnance portant Règlement pour les Guets et Gardes prétendus par les Seigneurs dans leurs terres et châteaux (Tours, 20 avril 1479) », Ordonnances, tome XVIII, pp. 470-474. ただしこの王令には、夜警担当者名簿の作成についての文言はない。
- ²⁹ リヨンの都市行政官の間では15世紀後半に、書かれた記録の増加とともにそうした記録の価値ないし信用度が上がったとされる。Caroline FARGEIX, *Les élites lyonnaises du XVe siècle au miroir de leur Langage*, De Boccard, 2007, p. 135.
- ³⁰ « Ordonnance sur l'adminstration de la justice (Paris, juillet 1493) », Isambert, tome XI, pp. 214-249.
- ³¹ « Ordonnance rendue, le conséquence d'une assemblée de notables, sur la justice et la police du royaume (Blois, mars 1498 v.s.) », Ordonnances, tome XXI, pp. 177-207. これへの補足的な王令が「Déclaration portant règlement pour l'exécution de l'ordonnance du mois de mars 1498, concernant l'administration de la justice (Paris, 8 juin 1499) », Ordonnances, tome XXI, pp. 228-231 ; « Ordonnance pour l'exécution des conciles de Bâle et de Constance et de la pragmatique sanction sur les collations de bénéfices, les mandats apostoliques, et règlement pour l'administration de la justice (Lyon, juin 1510) », Ordonnances, tome XXI, pp. 420-436.
- ³² « Ordonnance sur le fait de la justice (Villers-Cotterets, août 1539) », Isambert, tome XII, pp. 600-640.
- ³³ « Ordonnance générale rendue sur les plaintes, doléances et remontrances des états assemblés à Orléans (Orléans, janvier 1560 v.s.) », Isambert, tome XIV, pp. 63-98. これへの補足的な王令が「Ordonnance sur la justice et la police du royaume, additionnelle à celle d'Orléans (Paris, janvier 1563 v.s.) », Isambert, tome XIV, pp. 160-169 ; « Déclaration ampliative de l'édit sur la justice du mois de janvier 1563 (Roussillon, 9 août 1564) », Isambert, tome XIV, pp. 173-175.
- ³⁴ « Ordonnance sur la réforme de la justice (Moullins, février 1566) », Isambert, tome XIV, pp. 189-212.
- ³⁵ « Ordonnance rendue sur les plaintes et doléances des états-généraux assemblés à Blois en novembre 1576, relativement à la police générale du royaume (Paris, mai 1579) », Isambert, tome XIV, pp. 380-461. 全国三部会を経てまとめられた長大な王令として、この後に1614-15年のパリ三部会の成果である1629年1月付のバリ王令、いわゆる「ミショー法典」がある。「Ordonnance (Code Michaud) sur les plaintes des états assemblés à Paris en 1614, et de l'assemblée des notables réunis à Rouen et à Paris en 1617 et 1626 (Paris, janvier 1629) », Isambert, tome XVI, pp. 223-344.
- ³⁶ PICOT, op. cit., tome I, p. 352. ピコは1468年のトゥール三部会と1484年のトゥール三部会が、長い目で見れば1493年7月付のバリ王令と1498年3月付(旧表記)のプロワ王令という二つの司法改革令につながると見ている。Ibid., tome I, pp. 441-442.
- ³⁷ オルレアン三部会王令の前文 « Charles par la grace de Dieu roy de France : Savoir faisons à tous présens et avenir ; que sur les plaintes, doléances et remontrances des députez des trois estats de nostre royaume, rédigées par écrit en la convocation et assemblée d'iceux, faites et continuées en nostre ville d'Orléans, après le décès du feu roy nostre très cher sieur et frere, au mois de décembre dernier : icelles au long vûes en nostre conseil, où ont assisté nostre très honorée dame et mère, nostre très cher oncle le roy de Navarre, et les princes de nostre sang, seigneurs et gens de nostre conseil : Avons par leurs avis, conseil et mûre délibération, fait et autorisé, faisons et autorisons les ordonnances qui ensuivent. », Isambert,

tome XIV, p. 64 ; プロワ三部会王令の前文 « Comme au mois de novembre 1576, nous eussions fait assembler en nostre ville de Blois les trois estats de nostre royaume, et bénignement où et reçu leurs plaintes, doléances et remontrances rédigées et présentées par écrit : ausquelles toutesfois nous ne pûmes faire lors réponse, et pourvoir de remède convenable au soulagement de nos sujets, pour avoir esté nostre bonne et droite intention retardée par nouveaux troubles, ... Et après avoir vû et fait voir derechef lesdits cahiers en nostredit conseil privé, auquel assistoient aucuns princes, seigneurs, officiers de nostredite couronne et autres grands personnages : avons par l'avis d'iceux, fait statué et ordonné, faisons, statuons et ordonnons les choses qui ensuivent. », Isambert, tome XIV, pp. 380-381.

³⁸ PICOT, op. cit., tome II, p. 65-66.

³⁹ Ibid., tome II, pp. 385-386.

⁴⁰ ムーラン王令の第1-2条 « (1) Les ordonnances par nous faites depuis nostre avènement à la couronne, tant à la requeste des trois estats, qu'autres, mêmelement celles concernantes le fait de la justice, et semblablement celles de nos prédécesseurs, qui ne seroient spécialement révoquées ou modérées, seront gardées et observées en nos parlemens, grand conseil, chambre des comptes, et autres nos cours et justices, et entre tous nos sujets, nonobstant les remontrances faites ou réservées à faire sur aucuns articles d'icelles, nonobstant aussi que nos édits et ordonnances n'ayent esté publiées en aucunes desdites cours. Pourront néanmoins les gens de nosdits parlemens et cours souveraines (si par succez de temps, usage et expérience, aucuns desdites ordonnances se trouvoient contre l'utilité et commodité publique, ou estre sujets à interprétation, declaration ou modération) nous en faire telles remonstrances qu'il appartiendra, pour y estre pourvû ; et cependant nosdites ordonnances tiendront : ce que voulons avoir lieu, tant pour les ordonnances jà faites, qu'à faire. (2) Après que nos édits et ordonnances auront esté renvoyés en nos cours de parlement, et autres souveraines pour y estre publiés, voulons y estre procédé, toutes affaires délaissées, sinon qu'ils avisassent nous faire quelques remontrances, auquel cas leur enjoignons les faire incontinent, et après que sur icelles remontrances, leur aurons fait entendre nostre volonté, voulons et ordonnons estre passé outre à la publication, sans aucune remise à autres secondes. », Isambert, tome XIV, pp. 190-191. ムーラン王令が建白をむしろ規制するものだったとの指摘は Albert RIGAUDIERE, *Histoire du droit et des institutions dans la France médiévale et moderne*, quatrième édition, Paris, Economica, 2010, p. 662.

⁴¹ ムーラン王令の末尾(第86条に続く部分) « Si donnons et mandement à nos amez et féaux les gens tenans nos cours de parlement, grand conseil, et autres nos cours souveraines, prévosts de Paris, baillifs, sénéchaux, leurs lieutenans, et tous nos autres officiers qu'il appartiendra, que ces présentes nos ordonnances ils fassent lire, publier, et enregistrer, entretenir, garder et observer inviolablement, sans y contrevenir, ni permettre qu'elles soient aucunement enfreintes. Et sans recevoir aucune remontrance ni opposition au contraire, de personne que ce soit, dont nous avons retenu et réservons à nous la connoissance, et icelle interdite et défenduë à nosdits parlemens, grand conseil, et autres nosdits juges : car tel est nostre plaisir. Et afin que ce soit chose ferme et stable à l'avenir, et perpétuelle mémoire, nous avons fait apposer nostre scel à ces présentes. », Isambert, tome XIV, p. 212.

⁴² 1493年7月付のバリ王令の第110条 « (110) Item. A ce que les ordonnances des rois nos prédécesseurs, et les nostre présentes, soient doresnavant gardées et observées, et les transgresseurs d'icelles punis des peines contenues en icelles, nous ordonnons et enjoignons très expressément que les présidents de nostredite cour s'assemblent du moins chacun mois une fois, et convoquent et appellent avec eux les présidents des chambres des enquestes d'icelle nostre cour et aucuns de nos conseillers, aussi nos avocats et procureur, et entr'eux diligemment s'informent si lesdites ordonnances ont esté bien gardées, et s'il y a eu aucuns transgresseurs d'icelles, enjoignons à tous les dessus dits et chacun d'eux, que de ce qui leur sera dénoncé ils en fassent leur rapport en ladite assemblée, sans aucune amitié ou faveur, pour par nosdits présidents et autres

par eux pour ce convoquez, en estre faite plus grande inquisition et diligence. Si pour le bien de justice ils voyent que faire se doive, afin qu'ils puissent avoir connoissance, s'il y a infracteurs de nosdites ordonnances, et s'ils en trouvent, nous leur enjoignons et expressément commandons, sur leurs honneurs et consciences, et le serment qu'ils ont fait à Dieu et à nous, qu'ils en fassent rapport à la cour, sans dissimulation, et nonobstant quelconques prières, amitié ou alliance, en fassent faire des procès en façon et manière que si aucuns sont trouvez infracteurs desdites ordonnances, ils soient punis par nostredite cour des peines contenues en icelles, et à ce puissions savoir leursdites diligences, de faire lesdites convocations, assemblées et inquisitions, nous leur enjoignons aussi que desdites convocation et inquisitions ils fassent faire secret registre par le greffier de nostredite cour, ensemble les charges si aucunes étoient trouvées sur les officiers d'icelle cour ou autres, afin que par icelui registre puissions, pour le bien de justice, quand bon nous semblera, estre assez tenus de l'entretennement de nosdites ordonnances, ou infractions si aucunes étoient faites, pour y pourvoir en manière que icelles nos ordonnances soient gardées sans aucunement les enfreindre, au bien de justice et soulagement de nos sujets. », Isambert, tome XI, pp. 247-248.

⁴³ プロワ王令の第27条 « 27. Item, et pour ce que voulons et entendons nosdites ordonnances et chacune d'icelles, mesmement celles qui touchent le fait de nostredite cour de parlement, estre entierement gardées et observées par nosdits presidens, conseillers et autres supposts d'icelle cour, et si aucune chose estoit par ci-après faite au contraire, provision y estre donnée tellement, que faulte, inconvenient ou scandale ne s'en puisse ensuyr : voulons et ordonnons que doresnavant de quinze jours en quinze jours, ou du moins une fois le mois, les presidens de nostre cour, ensemble ceux des enquestes s'assemblent au mercredy après disner, selon et ensuivant l'ordonnance autrefois faite pour la conservation et entretenement desdites ordonnances. », Ordonnances, tome XXI, p. 183.

⁴⁴ プロワ王令の第78-79条 « 78. Item, et enjoignons à tous noz presidens et conseillers, baillifz, seneschaulx et autres juges, que dedans l'an de la reception des offices, sur le deu de leur serment, ils ayent les ordonnances par nous faites et noz predecesseurs, icelles voyent et sachent à leur pouvoir en tant que à chacun d'eux touche et peut toucher ; lesquelles voulons estre lues tant en nostredite cour de parlement que ès auditoires de nosdits baillifz, seneschaulx et juges, deux fois l'an, c'est à sçavoir, le lendemain de la Saint-Martin d'hiver et le lendemain de Quasimodo. 79. Item, voulons et ordonnons que en chascune chambre de noz cours de parlement, et semblablement ès auditoires de noz baillifz, seneschaulx et juges, y ait un livre desdites ordonnances, afin que, si aucune difficulté y survenoit, on ait promptement recours à icelluy. », Ordonnances, tome XXI, p. 193.

⁴⁵ ムーラン王令の第3条 « (3) Pour obvier et pourvoir à toutes contraventions à nos ordonnances, et icelles faire promptement casser, nous voulons que suivant nos anciennes ordonnances, les mercuriales soient tenuës en nos cours de parlement, de trois mois en trois mois, et enjoignons très-expressément à nos avocat et procureur général les promouvoir, et en poursuivre le jugement, et qu'elles soient incontinent envoyées à nous, ou à nostre très-cher et feal chancelier, dont nous chargeons les présidents de nosdits parlemens. », Isambert, tome XIV, p. 191.

⁴⁶ PICOT, op. cit., tome II, p. 193. 引用は第三身分陳情書からピコが引用したもの。

⁴⁷ プロワ三部会王令第207条 « (207) Et sur la requeste qui nous a esté faite par nos estats, de faire revoir les ordonnances faites par les rois nos prédécesseurs, aucunes desquelles ont esté révoquées et abrogées, les autres ne s'observent ; à la publication d'aucunes, nos cours souveraines ont ajouté certaines modifications, contenuës en leur registre, inconnuës à nos sujets : nous avons avisé de commettre certains personnages pour recueillir et arrester lesdites ordonnances, réduire par ordre en un volume celles qui se trouveront utiles et nécessaires ; et pareillement rédiger, réformer et éclaircir au mieux qu'il sera possible les constitutions particulières et locales de chacune province. », Isambert, tome XIV, p. 430.

⁴⁸ 書記の記録作成についてはプロワ王令の第95条「95. Item, ordonnons que les informations et productions des parties se feront doresnavant es mains des greffiers de noz bailliages et seneschaussées et autres sieges royaux, reservé les productions que en d'aucuns lieux de nostre royaume se font es mains des enquesteurs ; lesquelz enquesteurs, incontinent que les sacs seront fourniz et prestz à juger, seront tenuz de les appeler es mains dudit greffier ; lequel greffier sera tenu de enregistrer lesdites informations et productions qui lui seront baillées, sans ce qu'il en prenne rien, sinon que d'icelles parties ou aucunes icelles voulsissent faire collation d'aucunes de leurs pieces, auquel cas il sera raisonnablement payé de son salaire, selon la vacation qu'il aura faicte, en la maniere accoustumée, ou par la taxation raisonnable du baillif, seneschal, nostre juge, ou leurs lieutenans, si mestier est. », Ordonnances, tome XXI, p. 196 ; 記録の提供については第129-130条「129. Item. nous enjoignons ausdits greffiers qu'ils fassent registre de tous appointemens, sentences interlocutoires et autres actes judiciaires, sur lesquels registres lesdites expéditions seront levées, quand les parties les requerront, par un petit brevet de parchemin, quant à celles qui ne servent que pour instruction de la cause, et n'emportent aucune commission ou decision s'il n'en estoit appelé, lequel brevet sera signé dudit greffier ou son commis seulement, sans y faire apposer signet, scel ou marque de nosdits baillifz, seneschaulx, juges royaux ou leurs lieutenans, et sans prendre autre chose que le droit du greffier, ainsi qu'il est accoustumé raisonnablement. 130. Item. nous deffendons à nosdits greffiers qu'ils ne signent rien des expéditions et appointemens qu'il ne soyent contenuz en leur registre, ... », ibid., p. 201 ; 警吏の読み書き能力については同第54条「54. ... avons ordonné et ordonnons que le nombre ancien de nosdits sergens par les bailliages, seneschaussées et juridictions de nostre royaume, sera reduit et remis en rejettant tous autres sergens extraordinaires outre ledit nombre, pourveu toutesfoies que ceux qui demeureront esdits offices de sergens, seront de bonne et honneste vie, et sauront lire et escrire ; ... », ibid., p. 188. 1413年5月25日付のパリ王令(註13)第223条で国王公証人 notre notaire の条件として「ラテン語とフランス語を書く能力」が挙げられていたことと比較すると、識字能力が求められる役人の範囲が拡大している。Ordonnances, tome X, pp. 126-127.

⁴⁹ « Edit sur la juridiction des élus et la perception des aides, gabelles, les exemptions des nobles, l'incompatibilité des fonctions, le mode de répartition entre les paroisses (Montreuil, dernier juin 1517) », Isambert, tome XII, pp. 119-137. タイコ税の割り当てについては第7-8条「(7) Combien que nosdictes tailles doyvent estre assises, portées et payées par toutes manières de gens contribuables, le fort portant le foible : toutesfoies, ainsi que nous avons esté advertis, les plus riches et opulens, mesme du plat pays, sont ceux qui en payent le moins, et qui taschent à eux en exempter : les aucuns soubz couleurs qu'ils se disent nobles, combien qu'il n'en apparaisse rien : les autres qu'ils sont fermiers et métayers d'aucuns gens d'église, nobles ou autrement, qui est tousjours à la foule de nostredit pauvre peuple. A ceste cause nous avons enjoint et enjoignons à nosdits esleus, chacun en son élection, qu'en faisant par eux lesdites chevauchées et visitations, ils s'enquièreent si tous les habitans des paroisses de leurs élections sont assis et imposez à nosdites tailles. ... (8) Et pource qu'en nostre royaume y a aucunes villes et lieux, collèges et communautéz, et aussi aucuns particuliers habitans, tant nos officiers qu'autres, qui se veulent dire et maintenir estre francs et exempts des tailles, aydes et gabelles : nous ordonnons que toutes les villes, lieux, collèges, communautéz, nos officiers et autres particuliers, soient imposez à nosdites tailles, et icelles payent et portent, le fort portant le foible, fors et exceptez ceux qui par nos ordonnances ont privilège particulier deüement par nous confirmé, vérifié, et expédié, tant par nosdits généraux sur le fait de noz finances, que de ladite justice, qui en sont exempts, et qui en ont jouy plainement et paisiblement. Et enjoignons à nosdits esleus contraindre lesdits eux disans privilégiez à leur monstrier et exhiber leursdits privilèges. Et où ils trouveront iceux privilèges n'estre deüement et suffisamment vérifiéz et enregistréz es cours, et ainsi qu'il est accoustumé, comme dit est, ou d'iceux n'avoir justement jouy, les imposent à nosdites tailles, comme les autres

non privilégiez. », pp. 123-124 ; 書記については第13-14条「(13) Enjoignons ausdits greffiers de nosdites élections, qu'ils facent bons et vrais papiers, et registres des amendes qui nous seront adjudgées en leursdites élections, sans aucune en receller : et icelles bailleront par chacun an en un roolle, avec le contreroolle du bail des fermes, aux receveurs de nosdites aydes, chacun en son élection, pour icelles recevoir et faire venir ens. Pareillement les mettront lesdits greffiers au bout du roolle et papier du bail des fermes, qu'ils sont tenus bailler ou envoyer par chacun an au général de leur charge, sur peine de privation d'office. (14) Semblablement enjoignons à nosdits greffiers enregistrer ou faire enregistrer tous les appointemens, sentences, affirmations et expéditions faites et données es matières pendans pardevant lesdits esleus, soit qu'elles soyent données judicialement pardevant nosdits esleus, ou du consentement des parties : et d'iceux faire bons papiers et registres, ausquels les parties puissent avoir recours, et recouvrer lesdits appointemens, expéditions, et affirmations : sans ce que pour ce lesdites parties soient tenues en payer aucune chose. Mais où lesdits appointemens, sentences, affirmations ou expéditions seroient levées, en auront et prendront salaire, selon et en ensuyvant l'ordonnance faicte par nostredit feu seigneur et beau-père, et non plus : sur peine de privation de leurs offices, dommages et intérêts des parties, et d'amende arbitraire. », p. 125. ここであげられている先王の王令は「Ordonnance sur le juridiction des élus, les aides, tailles et gabelles en général (Paris, 11 novembre 1508) », Ordonnances, tome XXI, pp. 385-398.

⁵⁰ プロワ三部会王令の第341条「(341) En attendant que nous puissions pourvoir à la diminution et réduction de nos tailles, crûës, aydes et subsides, et les remettre en quelque meilleur ordre et estat : nous enjoignons à tous officiers et autres, qui ont et auront la charge de faire l'assiette et département de nos tailles sur nos sujets, procéder avec toute égalité au soulagement des pauvres, sans y apporter aucune faveur ne permettre qu'autres que ceux qui doivent assister à ladite assiette, y soient présens et employer à la fin des rolles, les exempts prétendus en leurs paroisses, et la cause de leur exemption, sur peine de s'en prendre ausdits assésurs en leur propre nom. », Isambert, tome XIV, p. 455.

⁵¹ « Déclaration portant que tous les propriétaires de fiefs et arrière-fiefs seront tenus de faire connaître la valeur desdits fiefs, les démembrements qu'ils ont éprouvés, à quelles charges ils sont soumis, et les noms et prénoms de ceux qui les possèdent (Compiègne, 15 octobre 1539) », Isambert, tome XII, pp. 641-643.

⁵² « Ordonnance sur le service du ban et arrière-ban (Fontainebleau, 9 février 1547 v.s.) », Isambert, tome XIII, pp. 40-49. 関連部分は「(1) Et premièrement, que tous gentils-hommes et autres tenans fiefs, subjects au ban et arrièreban, se trouveront à la première et prochaine convocation, qui se fera dudit ban, souz peine de confiscation de leurs fiefs, sinon qu'ils eussent excuse légitime : ... (8) Et lesdites premières monstres faites, en sera dressé un roolle, signé des baillifs et sénéchaux, capitaines, commissaires et contreroleurs, et de nos avocats et procureurs qui y auront assisté, sur lequel roolle se fera la prochaine monstre pour aller et marcher au service : et contiendra iceluy roolle le nombre au vrai des hommes qui se seront trouvez à ladite monstre, tant ceux qui feront le service en personne, qu'autres qui seront mis es lieux des inhabiles, et aussi des exempts, et défailans, le jour de leur partement, les noms et surnoms, tant desdits présens et défailans, que de ceux qui y auront esté commis en la place des absens ou inhabiles : les lieux de leurs demeurances, ensemble noms des fiefs, pour lesquels ils devront le service dudit ban : avec le nombre et nom des fiefs qui auront esté saisis sur ceux qui auront failly audit service : le nombre des deniers qui auront esté receus desdits inhabiles, roturiers, et autres ayans rentes infodées : comme ils auront esté distribuez par le menu, et employez sans rien en receler, sous peine du quadruple. Et ce fait sera ledit roolle clos et aresté, sans qu'il y puisse estre rien changé, augmenté ou diminué, si ce n'est par nostre exprès commandement. », pp. 41 et 43.

⁵³ プロワ三部会王令の第308条「(308) Et pour mieux obvier aux fraudes, qui se font ordinairement aux monstres des gens de guerre, nous voulons que les monstres de gens de pied d'une

même garnison, ou estans en une armée, ou en un siège, se fassent d'oresnavant en un même jour et même heure, et que les maire ou eschevins des lieux où lesdites monstres se feront, y assistent pour voir et controller ceux qu'on pourroit supposer : et que les passe-volans, et ceux qui se trouveront avoir presté ou déguisé leur nom, soient punis de mort et les armes confisquées. Et demeureront les rôles de ceux qui se seront trouvez ausdites monstres, au greffe du lieu, pour y avoir recours quand besoin sera. », Isambert, tome XIV, p. 449.

⁵⁴ ブロワ三部会王令の第257-258条 « (257) Et à cette fin voulons estre gardée l'ordonnance faite sur la remontrance des estats tenus à Orléans, contre ceux qui usurperont fausement et contre vérité le nom et titre de noblesse, prendront le nom d'écuyer, ou porteront armoiries timbrées, lesquels nous entendons estre mulctez d'amendes arbitraires par nos juges à la diligence et poursuite de nos procureurs chacun en son siège. (258) Les roturiers et non nobles achetans fiefs nobles, ne seront pour ce annoblis, ni mis au rang et degré des nobles, de quelque revenu et valeur que soient les fiefs par eux acquis. », Isambert, tome XIV, pp. 438-439.

⁵⁵ « Déclaration du Roy sur le fait & reformation des habits : avec defense aux non nobles d'usurper le titre de noblesse, & à leurs femmes de porter l'habit de Damoysselles, sur les peines y contenues (Paris, juillet 1576) », Fontanon, tome I, p. 718.

⁵⁶ « Ordonnance générale sur le fait des tailles et l'usurpation des titres de noblesse (Paris, mars 1583) », Isambert, tome XIV, pp. 540-548. 以上の規定は「貴族改め」の流れとして理解されよう。阿河雄二郎「ルイ十四世時代の「貴族改め」の意味」、服部春彦・谷川稔編『フランス史からの問い』山川出版社、2000年、49-73頁。

⁵⁷ « Déclaration portant règlement pour la nourriture des pauvres de la ville de Paris (13 février 1551 v.s.) », Isambert, tome XIII, pp. 262-263. 第1条 « (1) Que par commis et députés par nostredite cour de parlement, qui ont presté le serment en icelle, pour le fait de la police desdits pauvres, soit fait le plus diligemment que faire se pourra nouvelle inquisition et recherche, pour savoir de chacun manant et habitant d'icelle nostredite ville et fauxbourgs, ce que libéralement il voudra donner et aumosner, par chacune semaine, pour aider à la nourriture et entretenement desdits pauvres, et que de leurs offres, refus et response, il soit fait role en chacune paroisse: lesquels roles contenans lesdites offres, refus et response, soient incontient portés pardevers nostredite cour de parlement, pour iceux vus estre procédé, par elle ou ceux qu'elle commettra en cet endroit, à taxer chacun manant et habitant de nostredite ville de Paris et fauxbourgs d'icelle, à une somme de deniers, par chacune semaine eu esgard à leurs offres et facultés, ainsi qu'il appartiendra par raison. », p. 263.

⁵⁸ « Déclaration pour les réparations et fortifications de la ville de Paris (Saint-Germain-en-Laye, 27 février 1552 v.s.) », Isambert, tome XIII, pp. 306-311. 第2-4条 « (2) Et que, pour faire la cotisation de ce, tant sur les propriétaires desdites maisons et lieux dessusdits que des locataires, ainsi qu'il sera advisé, lesdits prévosts des marchands et échevins fassent convoquer et appeler en leur dit hôtel commun un conseiller de notre cour de parlement, un maître ordinaire de nos comptes ou autre officier de nostre chambre desdits comptes, un général de la justice de nostre cour des aides ou autre officier d'icelle cour, un de nos notaires et secrétaires, un conseiller de nostredite ville, le quartenier du quartier avec le cinquantenier de la dixaine où l'on besognera, le dixainier d'icelle et deux notables bourgeois de ladite dixaine qui seront tous tenus et contraints y assister et comparoir, mesmement nosdits officiers nonobstant le service qu'ils sont tenus nous faire, lesquels étant audit hôtel commun besoignans à cette affaire seront tenus pour excusés et réputés estre en service en nosdites cours et chambres de nosdits comptes. (3) Et lesdites personnes ainsi assemblées commettons et déléguons pour procéder, après avoir prêté le serment es mains de celui qui présidera audit hôtel de ville, à faire ladite cotisation tant sur les lesdits propriétaires que locataires d'icelles maisons et lieux devant dits en leurs loyautés et consciences, avec toute sincérité, y gardant l'égalité à un chacun sans porter aucune faveur et supporter l'un plus que l'autre dont, de ce, nous les chargeons sur le dû de leur conscience. (4) Pour après lesdites cotisations ainsi par eux

faites en être expédiés les roles de chacun des 16 quarteniers de notredite ville qui seront signés desdits délégués et du greffier d'icelle notredite ville et après, par ledit greffier délivrés et baillés auxdits 16 quarteniers pour faire venir ens les deniers desdites cotisations, les recevoir et recueillir, particulièrement, de chacune personnes dénommée ès dits roles selon sa cotisation. », pp. 308-309.

⁵⁹ « Exemption d'impôts en faveur des seize Quarteniers de la ville de Paris. (Montargis, janvier 1484 v.s.) », Ordonnances, tome XIX, pp. 464-466. 引用部分は « ayans charge expresse, chacun en son quartier, soubz lesdits prevost et eschevins, de regarder au fait de ladite ville, oyr toutes nouvelles, faire assembler les nobles, bourgeois, manans et habitans d'icelle ville, chacun en son quartier, toutes et quantes fois que besoing en est et en quelque temps que ce soit, de jour et de nuyt, pour donner ordre et provision aux affaires dessusdites et savoir quel nombre de gens y a en chacun desdits quartiers, tant habitans et residens ordinairement illec que autres extrangers », pp. 464-465.

⁶⁰ « Reiglement sur le fait de la police, contenant le deuoir des Commissaires du Chastelet de Paris, des Sergens à verge, des quarteniers, dixeniers & cinquanteniers (en Parlement, 22 décembre 1541) », Fontanon, tome I, pp. 638-640. 特に第19-20条 « 19 Et pour tollir & oster tant de gens oiseux & vagabons, qui ne seruent que de nombre à la charge & offense des bons citoyens, enioint ladite cour aux quarteniers, dixeniers, & cinquanteniers de cestedite ville, respectivement, & chacun en son regard, enquerir & sçavoir particulièrement en chacune maison de ceste ville & fauxbourgs d'icelle, quels gens y sont demeurans, en quel nombre, de leur qualité, estat, & moyen de viure & pour quelle cause ils demeurent en cestedite ville. Et où ils seront trouvez oiseux & vagabons, & ne servant de rien que charge à ladite ville, leur enioint ladite cour de vuidier cestedite ville, & fauxbourgs d'icelle, sur peine de la hart. Et à ceste fin enioint ladite cour au Preuost des Marchans & Escheuins de ceste ville, commettre & establir cinquantenier & dixeniers en chacun des fauxbourgs de cestedite ville, pour l'exécution du contenu en ce present arrest. 20 Et de ladite recherche & description que seront tenus faire lesdits quartenier, cinquanteniers & dixeniers de quinzaine en quinzaine, sur peine de priuation de leurs estats, & charges, en sera fait roolle, qui sera incontient mis par deuers le Commissaire de chacun desdits quartiers, pour information sommaire sur ce faite contre les delinquans y estre promptement pourueu par ledit Preuost de Paris ou sesdits Lieutenans, ausquels ladite cour enioint garder & faire garder estroittement ce present arrest, & ausdits Commissaires d'y tenir la main, sur peine de suspension de leursdits estats. », p. 639. 1558年4月18日のパリ王令は、パリ市内と郊外での浮浪者による盗みや殺人・喧嘩への対策のために、既に出されている「ポリスに関する高等法院の判決と命令」を追認した「Déclaration contre les vagabonds et gens sans aveu, et sur la police des maisons publiques à Paris (Paris, 18 avril 1558) », Isambert, tome XIII, pp. 509-512.

⁶¹ « Edit sur la police du guet de Paris (Paris, mai 1559) », Isambert, tome XIII, pp. 528-537. この王令は夜警を担当するはずだった商工業者に、代わりの金銭的負担を命じた。この王令までのパリの夜警制度については、高澤紀恵「「パリの夜回り」考」、比較都市史研究会編、『都市と共同体』(全2巻)下、名著出版、1991年、89-111頁。

⁶² ヴィレール・コトレ王令の第50-51条 « (50) Que des sépultures des personnes tenans bénéfices, sera fait registre en forme de preuve, par les chapitres, collèges, monastères et cures, qui sera foi, et pour la preuve du temps de la mort, duquel temps sera fait expresse mention esdicts registres, et pour servir au jugement des procès où il seroit question de pourver ledit temps de la mort, au moins, quant à la récréance. (51) Aussi sera fait registres, en forme de preuve, des baptêmes, qui contiendront le temps et l'heure de la nativité, et par l'extrait dudict registre, se pourra prouver le temps de majorité, ou minorité, et sera pleine foy à ceste fin. », Isambert, tome XII, p. 610.

⁶³ ブロワ三部会王令の第181条 « (181) Pour éviter les preuves par témoins, que l'on est souvent contraint faire en justice, touchant les naissances, mariages, morts et enterremens de personnes :

enjoignons à nos greffiers en chef de poursuivre par chacun an tous curez, ou leurs vicaires, du ressort de leurs sièges d'apporter dedans deux mois, après la fin de chacune année, les registres des baptêmes, mariages et sepultures de leurs parroisses faits en icelle année. Lesquels registres lesdits curez en personne ou par procureur spécialement fondé, affirmeront judiciairement contenir vérité : autrement et à faute de ce faire par lesdits curez ou leurs vicaires, ils seront condamnés es dépens de la poursuite faite contr'eux, et néanmoins contraints par saisie de leur temporel, d'y satisfaire et obéir : et seront tenus lesdits greffiers de garder soigneusement lesdits registres pour y avoir recours, et en délivrer extraits aux parties qui le requerront. », Isambert, tome XIV, p. 423.

⁶⁴ プロワ三部会王令の第106-107, 109条 « (106) ... avons ordonné et ordonnons que nul ne sera d'oresnavant pourvû ausdits estats de présidents, tant de parlement, que des enquestes, grand conseil et cours des aydes qu'il n'ait atteint l'âge de quarante ans pour le moins, et qu'au préalable il n'ait esté conseiller en cour souveraine l'espace de dix ans, ou tenu estat de lieutenant général en nos bailliages et sénéchaussées par pareil espace de temps, ou fréquenté les barreaux des cours souveraines ; exercé l'office d'avocat si longuement et avec telle réputation et renommée, qu'il soit estimé digne et capable desdits estats. (107) Les lieutenans de nos baillifs et sénéchaux ne seront pourvûs ni reçûs esdits estats, qu'ils n'ayent trente ans complets ; et quant aux conseillers des sièges présidiaux, qu'ils n'ayent vingt-cinq ans accomplis, et fréquenté trois ans auparavant les barreaux et plaidoiries de nos juridictions. (109) ... et pour le regard de l'âge, sera d'oresnavant vérifié par l'extrait des registres des baptêmes, et par l'affirmation des plus proches parens qui seront mandez à cette fin et ouïs d'office. », Isambert, tome XIV, pp. 407-408.

⁶⁵ ヴィレール・コトレ王令の第102-104条 « (102) Qu'en tous les sièges de nos juridictions ordinaires, soient généraux ou particuliers, se fera rapport par chacune semaine de la valeur et estimation commune de toutes espèces de gros fruicts, comme bleds, vins, foin, et autres emblables, par les marchands faisant négociations ordinaires desdites espèces de fruicts, qui seront contraints à ce faire, sans en prendre aucun salaire, par mulctes et amendes, privation de négociation, emprisonnement de leurs personnes, et autrement à l'arbitration de justice. (103) Et à cette fin, seront tenus lesdits marchands d'envoyer par chacun jour de marché, deux ou trois d'entr'eux, qui à ce seront par eux députés, et sans estre autrement appelés, ou adjournés au greffe des nosdits juridiction, pour rapporter et enregistrer ledit prix par le greffier ou son commis, qui sera incontinent tenu faire ledit registre, sans aucunement faire séjourner ni attendre lesdits députés, et sans en prendre aucun salaire. (104) Et par l'extrait du registre desdits greffiers et non autrement, se verra d'oresnavant la valeur et estimation desdits fruicts tant en exécution d'arrests, sentences, ou autres matières, où il gist appréciation. », Isambert, tome XII, p. 621.

⁶⁶ オルレアン三部会王令第98-99条 « (98) Tous prétendans à la maistrise de mestiers, seront tenus de faire chef-d'œuvre et expérience, quelques lettres qu'ils obtiennent de Nous ou nos successeurs, pour quelque cause et occasion que ce soit. Enjoignons très-étroitement à tous maistres de mestiers, garder et faire observer les statuts de leurs mestiers et ordonnance de nos prédécesseurs rois, sous les peines portées par icelles. (99) Et sur la requeste qui nous a esté faite par lesdits députez du tiers estat, Nous avons permis et permettons à tous marchands, artisans et gens de mestier, faire voir et arrester en langage intelligible leurs statuts et ordonnances, tant anciennes que modernes, et icelles faire imprimer, après qu'elles auront esté autorisées par Nous ; et sur ce obtenir lettres de permission. », Isambert, tome XIV, p. 88.

⁶⁷ 1510年6月付のリヨン王令については註31。公証人についてはその第63条 « 63. Item. Que d'oresnavant tous notaires et tabellions feront bons et suffisans registres et prothocolles des contrats et autres actes par eux reçus et passez, et iceux mettront par ordre selon la priorité et posteriorité desdits contrats et autres actes, afin que si d'oresnavant en estoit question, l'on puisse avoir recours

audit prothocolle ou registre, fors et exceptez les notaires de nostre chastelet de Paris. », Ordonnances, tome XXI, pp. 433-434.

⁶⁸ 譲渡契約についてはヴィレール・コトレ王令の第132条 « (132) Nous voulons que toutes donations qui seront faites ci-après, par et entre nos sujets, soient insinuées et enregistrées en nos cours et juridictions ordinaires des parties, et des choses données, autrement seront réputées nulles, et ne commenceront à avoir leur effect que du jour de ladite insinuation, et ce quant aux donations faites en la présence des donataires et par eux acceptées. », Isambert, tome XII, p. 627 ; 遺言等については同173条 « (173) Que tous notaires et tabellions, tant de nostre chastelet de Paris, qu'autres quelconques, seront tenus faire fidèlement registres et protocoles de tous les testamens et contrats qu'ils passeront et recevront, et iceux garder diligemment, pour y avoir recours quand il sera requis et nécessaires. », *ibid.*, p. 636.

⁶⁹ オルレアン三部会王令の第84条 « (84) Seront tenus les notaires faire signer aux parties et aux témoins instrumentaires (s'ils ne savent signer) tous actes et contrats qu'ils recevront, dont ils feront expresse mention, à peine de nullité desdits contrats et actes et d'amende arbitraire, et expédieront aux parties, ce requérans, lesdits contrats ou actes en bref, et par eux soussignez, sans que lesdites parties soient tenuës les lever en forme, si bon leur semble. Et en cas que les parties ou témoins ne sauront signer, les notaires ou tabellions feront mention de la requisition par eux faite aux parties, et témoins de signer, et de leur réponse qu'ils ne savent signer. », Isambert, tome XIV, p. 83 ; プロワ三部会王令の第165条 « (165) Tous notaires ou tabellions, tant royaux qu'autres, soit en pais coutumier ou de droit écrit, seront tenus faire signer aux parties et aux témoins instrumentaires, s'ils savent signer, tous contrats et actes, soient testamens ou autres qu'ils recevront, dont ils feront mention, tant en la minute que grosse qu'ils en délivreront, à peine de nullité desdits contrats, testamens ou actes, et d'amende arbitraire : et encore que les parties ou témoins ne savent signer, lesdits notaires et tabellions feront mention de la requisition par eux faite ausdites parties et témoins de signer, et de leur réponse : le tout nonobstant toutes lettres de déclaration que lesdits notaires pourroient avoir obtenu au contraire, lesquelles nous avons cassés et révoquées, encores qu'elles aient esté vérifiées en nos cours de parlement. », *ibid.*, p. 420.

⁷⁰ 1510年6月付のリヨン王令については註31。俗語使用についてはその第47条 « 47. Item. Pour obvier aux abus et inconveniens qui sont par ci-devant advenus au moyen de ce que les juges desdits pais de droit écrit ont fait les procès criminels desdits pais en latin, et toutes enquestes pareillement, avons ordonné et ordonnons, afin que les temoins entendent leurs depositions, et les criminels les procès faits contre eux, que d'oresnavant tous les procès criminels et lesdites enquestes, en quelque matiere que ce soit, seront faites en vulgaire et langage du pais où seront faits lesdits procès criminels et enquestes, autrement ne seront d'aucun effet ou valeur. », Ordonnances, tome XXI, p. 431.

⁷¹ オルレアン三部会王令の第9-10条 « (9) Outre ladite prébende théologale, une autre prébende ou le revenu d'icelle demeurera destiné pour l'entretienement d'un précepteur, qui sera tenu, moyennant ce, instruire les jeunes enfans de la ville gratuitement et sans salaire : lequel précepteur sera élu par l'archevêque, ou évêque du lieu, appelez les chanoines de leur église, et les maire, échevins, conseillers ou capitouls de la ville, et destituable par ledit archevêque ou évêque, par l'avis des dessusdits. (10) Ordonnons que les deniers et revenus de toutes confrairies, (la charge du service divin déduite et satisfaire) soient appliquez à l'entretienement des écoles et aumônes es plus prochaines villes et bourgades où lesdites confrairies auront été instituées, sans que lesdits deniers puissent estre employez à autre usage, pour quelque cause que ce soit. Commandons très-expressément à nos officiers, et aux maire, échevins, capitouls et conseillers des villes et bourgades, chacun en son endroit, d'y avoir l'œil, à peine de s'en prendre à eux. », Isambert, tome XIV, p. 67. これに先立ってヴィレール・コトレ王令は同業者の信心会組織を禁止した。前掲拙稿1頁および註34, 15頁。

⁷² MICHAUD, *op. cit.*, p. 2.

⁷³ 本稿でも参照したフォンタノン王令集はパリ高等法院の弁護士が編纂したとされ、1580年初版で、王令を分野別に収集している。ミショーとオリヴィエ＝マルタンが挙げている王令集の例はパリ高等法院首席院長 Barnabé Brisson 編纂による1587年初版の『アンリ3世王令集』。MICHAUD, op. cit., p. 384 ; オリヴィエ＝マルタン、前掲書、523頁。法思想史においても16世紀の法学者は実践的な法の体系化を試みていたとされる。西村隆彦志「法の歴史学派」とドノーの方法 覚書『愛媛法学会雑誌』16巻2号、1989年、1-34頁、同「一七世紀法学における「フランス人の法」の構築 法整序にたいする一七世紀以降の対応」『愛媛法学会雑誌』30巻3-4号、2004年、49-78頁。なおルイ14世治世に進められる法典編纂を、オリヴィエ＝マルタンは「新しい一技術の採用によって改革を完全なものにするもの」と位置づけた。オリヴィエ＝マルタン、前掲書、524頁。